

企業ニュース レーザーテック

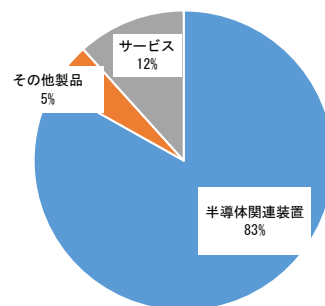
(東証1部 : 6920) <https://www.lasertec.co.jp/>

作成者 : 兵藤三郎

半導体フォトマスク検査装置メーカー

◇21. 6期売上高構成比

1960年に東京 I T V 研究所として創業、X線テレビの開発を行う。1962年に日本自動制御へ組織変更、1986年に現社名へ変更した。現在の主力事業は半導体のマスク（ウェーハに回路パターンを転写させる際の原版）、ブランク（回路パターン形成前のマスク材料）、ウェーハ（半導体が作られる基板）などの検査装置。最先端の光応用技術を用いた独自の検査・測定装置を開発・提供してきた。半導体の需要は旺盛で、大手半導体メーカーは微細化追求に加え、製造能力の増強を図っている。加えて、EUV（極端紫外線）露光の活用本格化に伴い、EUV光を用いた検査装置の需要が高まっている。「ACTIS A150」は世界初のEUV光を用いたパターンマスク欠陥検査装置で、今後導入が見込まれるペリクル（防塵用保護膜）付きマスクにも対応している。



(出所) レーザーテック資料よりCAM作成

半導体関連装置が業績をけん引

21. 6期の連結業績は売上高が702億円、前期比65%増、営業利益が261億円、同73%増。EUV関連製品がけん引し、半導体関連装置が大幅増収となった。プロダクトミックスの良化により営業利益の伸びは増収率を上回った。研究開発費の対計画未達も利益貢献した。マスクブランク欠陥検査装置の検収が想定以上に進捗し、売上高は会社計画を82億円上振れて着地した。受注高は1,129億円、同41%増、6月末の受注残高は前期末比426億円増の1,358億円、EUV関連装置の伸長がけん引、従来型の検査装置も好調に推移し、高水準となった。

22. 6期の会社計画は売上高が830億円、前期比18%増、営業利益が270億円、同4%増。「ACTIS」の売上計上が本格化するが、初期ロットのコスト高により粗利率は一時的に低下、積極的な研究開発投資を行う計画で、営業利益は小幅な増加にとどまる。ロジック半導体は、2022年の下期（7-12月）には3nmの量産が開始される見込みで、マスク検査装置の需要拡大が続こう。DRAMでもEUV露光の量産投資がスタートする見込み。

[株価動向・投資判断]

関連技術の進化に伴い、半導体メーカーによるEUV露光工程採用は加速、豊富な受注残もあり、中期的な成長が期待できよう。

<6920 レーザーテック 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 6	42,572 (48)	15,062 (90)	15,115 (93)	10,823 (82)	120.0	58.00
21. 6	70,248 (65)	26,074 (73)	26,438 (75)	19,250 (78)	213.5	75.00
22. 6 予	83,000 (18)	27,000 (4)	27,000 (2)	21,000 (9)	232.9	82.00

(注) 20年1月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を実施。20.6期の1株配当は分割前の第2四半期末31円と分割後の期末27円の単純合計



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/10/15)	26,210 円
年初来高値 (高値日)	29,650 円 (21/9/8)
同 安値 (安値日)	11,270 円 (21/3/9)
予想 P E R (22. 6 予)	112. 6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	611. 7 円
P B R	42. 84 倍
予想配当利回り	0. 31 %
(1株当たり配当金年82. 00円)	
R O E (21. 6)	40. 8 %
発行済み株式数	9, 429 万株